

令和2年度 自己評価計画書

							石川県立宝達高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
1 3年間を見通した学力向上の取組とキャリア教育の充実によって、生徒の進路実現100%を目指す。	① 授業に臨むときの基本的な姿勢や規律ある学習態度の定着を図る。	教務課 各教科 各学年	「学びの4か条」を全教室に掲示するなど、学習規律の指導に努めているが、気が緩むと集中力を欠き私語を始める生徒が見られる。	【成果指標】 学習規律を守っている生徒の割合が100%になる。	学習規律（学びの4か条）を守っている生徒の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	C, Dの場合、指導法の改善に努める。	7月・12月に調査（生徒アンケート）	
	② 授業での学習内容が次の授業につながるような取り組みやすい学習課題を与えてこまめにチェックし、個に応じた助言・支援とともに褒める機会を増やす。	教務課 各教科 各学年	ほとんどの生徒が授業以外での学習に取り組んでいるが、60分未満の生徒が半数以上おり、自ら学び理解を深めようとする意欲を高める必要がある。	【成果指標】 授業以外の学習時間を60分以上確保している。	授業外学習時間が60分以上の生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	C, Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査（生徒アンケート）	
	③ ICTの効果的な利活用や協働学習、双方向型授業、思考を促す発問等の授業改善に取り組み、思考力・判断力・表現力を育成する。	教務課 各教科 各学年	ICTの稼働率が上がり、一定の学習効果が見られるが、生徒の考えをより広げ、深めるための協働学習のあり方を追究する必要がある。	【努力指標】 教員の授業設計力と授業力の向上を図る。	生徒同士の意見交換や発表等、生徒が相互に高め合う機会を授業で設けていると評価する教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	C, Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査（教員アンケート）	
	④ 各種研修や互見授業、授業参観等を通して、学習指導方法の改善に努める。	教務課 各教科	学力の差が広がり、個に応じた細やかな授業の進め方や教材の工夫に努めている。小・中学校の授業を参観し、よりわかりやすい授業を日々模索している。	【満足度指標】 生徒が授業における指示や説明がわかりやすいと感じる。	授業がわかりやすいと感じる生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	C, Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査（生徒アンケート）	
	⑤ 段階的に上級学校や関係機関・地元企業との連携を通して、生徒の進路意識を高めて早期に進路目標を設定することができるよう支援する。	進路指導課 各学年	各種進路行事の事前指導及び事後の振り返りを丁寧に行い、進路意識の高揚を図っている。また、最新の進路情報の提供に努めている。	【満足度指標】 各学年のキャリア学習が、上級学校理解・職業理解などを通じて生徒の進路選択に役立っている。	各学年のキャリア学習が進路選択に役立っているとする生徒の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	C, Dの場合、取組について検討する。	7月・12月に調査（生徒アンケート）	

石川県立宝達高等学校									
重点目標		具体的取組		主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1	3年間を見通した学力向上の取組とキャリア教育の充実によって、生徒の進路実現100%を目指す。	⑥	進路ガイダンスとカウンセリングを充実させる。生徒一人一人の状況を把握し、目標の見直しを支援する。また、生徒の希望・適性・能力に合致した進路指導に努める。	進路指導課 各学年	生徒の希望や活動成果に基づいて進路指導を行い、特に進路が決められない生徒に対し、段階的な指導を実施している。	【成果指標】 生徒の進路実現率が100%になる。	生徒の進路実現率が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	C・Dの場合、指導計画・指導法の改善に努める。	12月・年度末に集計
2	自主自律の精神を持った社会人としての資質・能力を身に付ける。	①	学校内外の日常生活の場面で、TPOをわきまえた判断と言動ができるように指導を行い、社会の一員としての自覚を促す。	生徒課 (生徒指導) (生徒会)	全体的には、身なり・挨拶ともに一定の評価を得ているが、挨拶が苦手な生徒が見られる。挨拶運動を生徒会活動の一環として位置づけ、生徒が主体となって取り組むことにより、学校全体のマナー向上の気運を高めることが重要である。	【満足度指標】 規範意識を持って、自発的に行動することができたと考えている。	生徒同士や職員、外部の来客や地域の方々に対し、自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪的身だしなみがきちんとしていたと答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：75% 未満	C, Dの場合取組について検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
		②	基本的な生活習慣確立のために年間5回「生活実態調査」を実施し、生徒一人ひとりの生活状況やいじめ等の悩みを把握し指導に活かす。	生徒課 (厚生)	生活実態調査の結果を職員会議や学校保健委員会等で共有し、全教職員があらゆる機会をとらえて生活改善指導を行っている。家庭でのスマホ使用については、PTAの取組として継続・強化したい。	【努力指標】 生活実態調査の結果を生活指導に活かし、生徒の生活改善につなげる。	生活実態調査の結果が個々の指導に活かされていると答えた教員の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	C, Dの場合取組について検討する。	7月・12月に調査 (教員アンケート)
3	宝達高生としての誇りや自己有用感を高めながら、人間性や社会性を磨く。	①	日々の清掃活動を通して、奉仕の心やものを大切にする心を養う。また、美化コンクールを通じて、他と協力し合いながら働くことの意義を確認し、活動成果を褒めることにより、自己有用感を高め、主体性を育む。	生徒課 (厚生)	清掃活動には多くの生徒が真面目に取り組んでいるが、受動的な気持ちで取り組む生徒もいる。分担と実践活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、責任感を育成する必要がある。	【成果指標】 役割分担をし、協力して清掃活動に取り組む事ができている。	役割分担をし、協力して清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	C, Dの場合取組について検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)

石川県立宝達高等学校									
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考		
3	宝達高生としての誇りや自己有用感を高めながら、人間性や社会性を磨く。	②	部活動の組織的運営を図り、自主的・継続的に部活動に取り組むことができるよう指導する。限られた時間を有効活用し、競技力・表現力の質の向上を目指すことで個々の人間力を高める。	生徒課 (生徒会) 各学年	年間を通じて部活動に取り組む生徒が近年減少している。年度途中の退部や安易な欠席を繰り返す生徒を減らすため、顧問・担任・家庭が密に連携し、持続的な参加を促す必要がある。	【成果指標】 継続的に部活動に取り組む姿勢を培う指導ができています。	部活動に加入し、継続的に取り組んでいる生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	C, Dの場合 指導のあり方を検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
		③	地域への貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、生徒の成長を促す。また、地域活動を通して、自己の在り方生き方を深く考える時間を増やす。	生徒課 (生徒会) 各学年	地域活動の意義を理解し、社会の一員として貢献しようとする態度が見られる。地域と連携し、より多くの生徒が積極的に参加できる機会を増やしたい。	【成果指標】 地域への貢献活動やボランティア活動に取り組む姿勢を培う指導ができています。	地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだ生徒の割合が A：80% 以上 B：75% 以上 C：65% 以上 D：65% 未満	C, Dの場合 指導のあり方を検討する。	7月・12月に調査 (生徒アンケート)
4	地域との交流・連携を密にし、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	①	学校からの配布物やホームページ(HP)等の情報を通して、生徒・保護者および地域住民に本校の教育活動を理解してもらう。	総務課 各学年	HPのアクセス数は、昨年度より大幅に増加した。今後も受信者の興味を惹きつける内容になっているかを評価・検証しながら情報発信を行う。	【努力目標】 本校の教育活動の理解に役立つ最新の情報を提供する。	学校からの配布物やHP等による情報が、教育活動の理解に役立つと答えた保護者の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	C, Dの場合 取組について検討する。	7月・12月に調査 (保護者アンケート)
5	教職員は、ワークライフバランスやタイムマネジメントを意識しながら、組織的で効率的な働き方に努める。	①	限られた時間を意識した働き方を行う。若手教員に対するサポート体制を維持する傍ら、若手教員にも責任ある企画や運営に参加させるなど、業務の平準化を図る。	各課主任 教科主任 部活動顧問	若手研修の充実、OJTの活用等を通して業務改善に努め、ゆとりを持って生徒と関わり指導する時間を確保することが大切である。	【努力指標】 見通しを持ち計画的に業務を行う。	見通しを持ち計画的・効率的に業務を遂行することができた教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	C, Dの場合 は改善策を検討する。	7月・12月に調査 (教員アンケート)